地が取りして

毎月1回 1日発行 購読料 定価150円 (本体139円) 年間1,500円(税込み) 振替 00120-0-19017

発行所 ㈱地方・小出版流通センター 編集 アクセス編集委員会 〒 162-0836 東京都新宿区南町 20 TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

故・中村幸男氏の足跡を辿る

豊かな歴史文化の息づくまち・松山での出版活動 アトラス出版の文化的役割の大きさ

文・アテネ書店 代表 松岡省自

突然の訃報

去る3月4日、私は突然の電話にことばを失った。あまりにも身近にいた人の急逝だった。アトラス出版代表の中村幸男氏(63歳)が心不全で亡くなったという知らせである。

彼と私とは三十年来の友人で、アトラス出版のオフィスは私の所有するビルの2階にあり、1階も地方出版物専門の書店にしているため、ほぼ毎日のように顔を合わせる間柄だった。

彼は南予(愛媛県南部)の宇和島市 に生まれ、高校2年のときに松山に移 り、中央大学文学部に学んだ。南予の 人は辛抱強く、穏やかで責任感が強い といわれるが、彼もまたそうした気質 を持っていた。

彼は短期間だが東京の出版社に勤め、帰郷後、書店やタウン誌編集部、広告代理店などを経験したあと、好きな本をつくることで生計を立てようと編集専門の制作会社を立ち上げ、やがて出版社へと発展した。25年前のことである。

当時の松山は、東京と比べれば、著者・編集者・印刷所・製本所などの出版基盤はほとんどないに等しいから、ある種、無謀ともいえるが、奥さんの英利子さんにライターや編集の経験があり、夫婦二人きりの出版社とはいえ、同じ志をもって松山で文化を創っていこうとした。

一体何を目標にしていたのか、中村 氏の一生を振り返ってみたい。



お元気だったころの故・中村幸男氏

地域に根ざした二社の本づくり

愛媛にはアトラス出版のほかに、創風社出版という出版社がある。実はその代表の大早氏も中村氏と同じ宇和島市の出身で、しかも中学時代同級生だった。創風社出版が先頃創立30年を迎えたから、こちらのほうが先輩格になるのだが、設立時は出版の経験がない大早氏に対し、中村氏が何かと世話を焼いたと聞いており、よきライバルの存在が愛媛の出版文化を盛り上げたともいえる。

2社は絶妙の距離で住み分けをしながら共存していったが、文化専門ともいえるアトラス出版が存続し得たのは、やはり松山という土地柄とでもいえようか、正岡子規や夏目漱石、山頭火、虚子などの文人・俳人たちをはじめ、小説「坂の上の雲」の舞台となった豊かな歴史文化の息づくまちで、それらを題材とした出版が可能だったからであろう。

日本中、どこのまちも同じような、

特徴のないものになりつつあったこの 数十年、松山が松山らしくあったこと へのアトラス出版の文化的役割は大き いと思う。

経営に苦労した元文学青年

実は、私とアトラス出版とは、オフィスを貸している大家と店子という関係だけではない。私は書店経営に必要なコンピュータ・ソフトの開発をしていて、それを知っていた中村氏が出版社に必要なソフトの開発、具体的に言えば売上管理システムの開発を依頼してきたのである。2002年に開発を始めたから、もう14年も昔のことである。

それというのも、東京で社員を多数 抱えている出版社なら、編集部のほか に経理や営業部門があるから、各自が 自分に向いた仕事に就けば事足りる が、地方の出版社の場合、経営者はす べての業務をやらなければならない、 といっても過言ではない。中村氏の場 合も同様で、大学で文学は学んだもの の、経理についてはまったくの門外漢 だったため、社会に出てから自分で勉 強しなければならなかった。

だが中村氏は、自分に不得意な分野の仕事ができる人を、身の周りで探すのは得意であった。むろん外部の専門家に委託するのもひとつの方法だが、コストの関係もあって身近にいた私など数人が使われたともいえる。

出版社は、書籍という商品を委託することによって販路を拡大していくから、ふつうの商品の精算よりも複雑である。中村氏も最初は手書き伝票で対応していたというから、書名を書くだけでも大変な労力だったであろう。その点では、省力化のお手伝いができたといえるが、地方の小さな書店相手に委託業務を行う煩雑さは、このソフトをもってしても完璧には解決できなかった。また、通常業務をしながら、編集ソフトのバージョンアップに対応

するのは激務であった。

そうした過重な業務が、あるいは中 村氏の命を短くしたのかもしれないと 思ったりする。

脳をフル活用して

中村氏の仕事を身近で見ていて思っ たのは、出版に至るまでの編集業務も また複雑で、難しいということだ。

中村氏が得意とするのは校正だったが、文章を読みながら校正をするということは、脳を二重化し、第一回路で文面を読みながら第二回路で誤字脱字など文章として具合の悪いところを同時に直していくということだから、誰



アトラス出版から目と鼻の先にある子 規堂(写真は同社ホームページから転 載。白石光一氏撮影)

にでもできるものではない。

長年このような経験を積んできたせいか、原稿を預かって校了するまでの時間は、私などにとっては驚異的なスピードに感じた。

中村氏の郷土に対する深い知識と愛着は、これから人生の仕上げにかかろうというところで無残に打ち切られてしまったわけで、われわれ愛媛にとって多大なる損失だと考えている。

しかし、中村氏には34歳になる息子洋輔さんがいる。通夜の席上、英利子さんと二人で父親の跡を継いでいくと決意を述べられたが、私はこれを聞き、*これからも地方で文化が守られていく、と胸のうちで感じた。

*

(まつおか しょうじ/アテネ書店 代表)

新刊ダイジェスト

※価格は税込(消費税率8%)表示です。



『大村智博士の一期一会 -次代へつなぐ30の言葉』●山梨日日新聞社編



2015 年度ノーベル医学生理学賞を受賞した 大村智博士が大切にしてきた30の言葉を選び、 多くの写真とともに披露する楽しい本。「実践 躬行」「失敗は成功のもと」「微生物は無限の資 源」「人のまねはしない」等々、ノーベル賞受 賞にまつわるエピソードを随所にはさみながら 紹介する。「人のためになることをする」のを 信条とする大村博士は、土の中の微生物が生ん だ抗寄生虫薬イベルメクチンをつくり、毎年2 億人もの熱帯の人々を失明から救った。大村博 士のこれらの研究の仕方は、必要とする研究費 は自らまかなうということだ。製薬メーカーから資金を引き出させたり、自らの特許料等をその財源としてあててきた。

また博士は、一流絵画のコレクターでもある。 そのコレクションの中から 350 点を北里病院 に飾って患者さんへの癒しとした。女子美術大 学に基金や賞を創設して若い女流画家を支援 し、故郷の山梨県韮崎市には自身のコレクショ ンを展示する美術館を建て市に寄贈している。

◆ 1620 円・A 4 判・64 頁・**山梨日日新聞社・** 山梨・2016/2 刊・ISBN 9784897109145



『日々、フェイスブック』●神山睦美著



吉本隆明論や漱石論、小林秀雄論で知られる 団塊世代の文芸評論家の著者だが、3年ほど前 に、知人の誘いでフェイスブックに登録してみ たものの勝手がわからず、時々開いて見るくら いだった。そのうち物書きらしき「友達」を見 よう見まねで文章をポストしてみたら、すぐに 「いいね」の反応があり「感動」を覚えたという。 「三十年以上文章を書いてきて、即座に『いいね』 などといってもらったことは一度もない」。そ れからというもの著者は本格的にフェイスブッ クを利用し始め、実際の原稿の下書きのような

ものもポストしたことがあるという。本書に収められているのはこの三年間に投稿された文章のうち「いいね」の反応が比較的多かったもの。「宮沢賢治と蝦夷」「東大闘争・全共闘へ」「村上春樹とカフカと 3.11」等テーマ別に並べ替えられている。幼いころを過ごした花巻の大沢温泉の情景や、東大闘争の記憶、友人の死など自伝的要素が織り込まれた文章は、どれも胸に沁みるものばかりである。

◆ 1944 円・四六判・331 頁・**澪標・**大阪・2016/4 刊・ISBN9784860783303

『More Better Life 豊かに暮らすということ』●眞木健一著



日本人のモノづくりの技術力は今や世界中から高い評価を得ている。自動車などの工業製品から染め物や鍛冶、木工技術など分野は多岐にわたるが、それには江戸時代からの職人気質を大切に受け継いできた歴史があり、こうして日本の産業は発展してきた。かつて日本人は昔ながらの職人技の光る道具に囲まれて暮らしていたが、戦後、生活は目まぐるしく変化し、消費が美徳とされ、本当に大切なものを見失ってしまった。 注文住宅を通じて職人が家を守り続ける文化を遺そうとする著者はそんな現代に疑

問を持ち、生活の見直しを提案する。美しい写真と共に紹介される生活の道具、自然食品、住まいの数々。一年中花を絶やさず、旬の野菜や魚を味わう。体に優しい木の家の中心に置かれたテーブルに家族が集い、愛用の椅子でゆっくりとくつろぐ。食と住を通じて暮らしのあり方を示し、家づくりに食づくりに真面目に取り組む職人たちを応援している。

◆ 1620 円四六判・172 頁・**書肆侃侃房・**福岡・2016/2 刊・ISBN9784863852105

『仙台藩の参勤交代 ー仙台から江戸へ360キロ』●渡邊洋一著



参勤交代という制度は有名でも、その実像はあまりよく知らないものです。本書は薄いブックレットの体裁ではありますが、東北の大藩である仙台藩の参勤交代についてまとめています。仙台から江戸までは七泊八日もしくは八泊九日、一日あたりの移動距離は40キロに及びます。お供の人々も少ない時で百人以上、多い時には三千人ということも。当然その費用も馬鹿になりません。各大名家が江戸幕府に背く力を持てないように参勤交代の制度が定められたというのがよくわかります。しかし行き過ぎて

結局は幕府の崩壊まで招いてしまったようですが…。それらを著者は多くの史料を用いて解説してくれていますが、その史料自体も興味深いものばかりです。仙台藩の行列は派手好きだと指摘されたり(『東遊雑記』)、五代藩主伊達吉村から子の伊達宗村に宛てた微に入り細を穿つような参勤交代のための覚書(『獅山公治家記録』)があったりと、史料を読む楽しみも本書には多くあります。

◆ 864 円・A 5 判・87 頁・**歴研・**東京・ 2016/2 刊・ISBN9784865480344

『鮎川義介 日産コンツェルンを作った男』●堀 雅昭著



「日産」と聞いても今では自動車メーカーしか浮かんでこないが、戦前は、現在の日立製作所、損保ジャパンなど製造から石油・鉱工業、金融・商事部門まで文字どおり「日本産業」として、三菱、三井をも凌ぐ巨大財閥であった。その総帥で、岸信介、東條英機などと共に満州を支配した「二キ三スケ」と呼ばれた鮎川義介は、「事業は創作であり、自分は一個の創作家である」と語り、アメリカ資本やユダヤ人労働者の移植までを視野に入れ、次々と新事業に挑戦し続ける産業ユートピアンであったという。

戦犯で収監されながらも高度経済成長のリーダーとして返り咲く。成功事例だけではない。 国立国会図書館憲政資料室所蔵文書によって明らかにされた昭和27年の大分化学工業と湯布院ダム計画、テレビ普及を目的とした31年の新宿六丁目への円形ドーム型野球スタジアム建設構想。いずれも幻に終わるが、鮎川の先進性と特異な経営哲学が如実に示されて興味が尽きない。

◆ 2376 円・四六判・332 頁・**弦書房・**福岡・2016/3 刊・ISBN9784863291317

地小版

流通センター

ジャンル別新刊案内

2016 年 3 月 1 日〜 31 日 流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は 所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込(消費税率8%)表示です。

【雑誌】

- ◆ f a u r a 5 1 ナチュラリー編 A 4 80頁 1 0 2 8円 ナチュラリー [北海道] 978-4-503-20807-1 16/03
- ◆**ゆきのまち通信** 1 6 3 企画集 団ぷりずむ編 A 5 50頁 5 0 0 円 企画集団ぷりずむ [青森] 978-4-503-20803-3 16/03
- ◆榛名団 18号 富沢 智編 A5

売行良好書

期間: 2016年3月15日~4月15日

「出荷センター扱い」※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1) 『へろへろ 雑誌「ヨレヨレ」と「宅老所よりあい」の人々』1620 円・ナナロク社 (2) 『かっこいい大人から学ぶ愛と勇気』1620 円・EH情報システム (3) 『大村智博士の一期一会』1620 円・山梨日日新聞社 (4) 『出産・育児ママのトリセツ』1512 円・忘羊社 (5) 『悲しみの秘義』1728 円・ナナロク社 (6) 『今、この本を子どもの手に』1080 円・東京子ども図書館 (7) 『鮎川義介 日産コンツェルンを作った男』2376 円・弦書房 (8) 『石田三成の青春』1836 円・サンライズ出版 (9) 『アルコール依存症を知る!』1080 円・アスク・ヒューマン・ケア (10) 『肉筆で読む作家の手紙』2160 円・本の雑誌社 (11) 『ろう者のトリセツ 聴者のトリセツ』1296 円・星湖舎 (12) 『デジタルが変える出版と図書館』2592 円・出版メディアパル











[三省堂書店神保町本店 センター扱い図書] ※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1) 『極東セレナーデ』1836 円・フリースタイル (2) 『東京かわら版 No.511』650 円・東京かわら版 (3) 『三角形』360 円・暗黒通信団 (4) 『円 小中学生から学べる初等幾何学入門』339 円・暗黒通信団 (5) 『本の雑誌 No.395』720 円・本の雑誌社 (6) 『高尾山・景信山 陣馬山 登山詳細図』823 円・吉備人出版 (7) 『へろへろ 雑誌「ヨレヨレ」と「宅老所よりあい」の人々』1620 円・ナナロク社 (8) 『本屋大賞2016』600 円・本の雑誌社 (9) 『円周率1、000、000 所表』339 円・暗黒通信団 (10) 『真田道を歩く 改訂版』1296 円・上毛新聞社

「ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本一センター扱い図書」※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1) 『鯨の目 成田三樹夫遺稿集』2935 円・無明舎出版 (2) 『奥武蔵登山詳細図 武甲山・武川岳・伊豆ヶ岳・丸山 全130コース』950 円・吉備人出版 (3) 『古代ギリシャ語語彙集』2700 円・大阪公立大学共同出版会 (4) 『バルト三国 愛しきエストニア、ラトビア、リトアニアへ』1728 円・書肆侃侃房 (5) 『昆虫の図鑑採集と標本の作り方 増補改訂版』3780 円・南方新社 (6) 『とりカフェさんぽ』1512 円・イーフェニックス (7) 『日本の鉱山を巡る(下)』3240 円・弦書房 (8) 『からだにやさしい』1620 円・青磁社 (9) 『徹底解説 電動機・発電機の理論 [改訂版]』3024 円・Energy Chord (10) 『途上国の人々との話し方』3780 円・みずのわ出版 (11) 『中国妖怪・鬼神図譜』3780・円・中国書店(集広舎)

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。 URL: http://neil.chips.jp/chihosho/ ッイッター公式アカウント:@local_small

トピックス --- ★★★

- ▼4月14日夜から熊本県を中心に続いた地震で多くの方が亡くなりました。ご 冥福をお祈りいたします。また被災されたすべての方々にこの場をかりてお見舞い申し上げます。普段からおつきあいのある熊本の出版社や書店の方々の情報も様々に入ってきておりますが、1日も早く不安が払拭されますよう祈念しております。
- ▼ 1979 年 12 月に創刊された障害者問題総合誌【そよ風のように街に出よう】が、来年 4 月刊行予定の 91 号で休刊することになったとのことです。編集部では、読者や執筆者、販売業者等々本誌に関わった方々から原稿を募集しております。本誌との思い出や記憶、感想、現在の社会状況についての意見等。2000 字以内で 7 月 30 日必着。詳細は「そよ風のように街に出よう」でネット検索を。
- ▼甲賀市信楽町にあるミホミュージアムにて、「KAZARI かざり 一祭りと信仰のエネルギー」展が開催中です。 5月15日まで。古代の仏教美術から伊藤若冲の動植綵絵(どうしょくさいえ)、江戸時代の山車を飾る工芸品まで、日本に花開いた信仰の中の「かざり」の世界を見渡す特別展。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、 連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、 冊数の必要事項を明記のうえ、下記ま でFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182



三省堂書店

営業の ごあんない

神保町本店 4階 地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~8:00 PM 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 TEL. 03-3233-3312(代)

URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流 通センター扱いの新刊全点のほか、 地域別に書籍を取り揃えており ます。また、地域ならではのタウ ン誌、趣味の雑誌も扱っております。

